

G30 for everyone 他 英語環境

三小田 博 昭

(1) 研究の背景

平成16年に名古屋大学が国立法人となったのを契機に、名古屋大学総長を中心とする大学執行部体制が重要な役割を担うようになった。当然ながら附属学校も大学の意志決定のもと大学法人附属としての学校として運営がなされるようになった。名古屋大学の理念である「勇気ある知識人」や濱口道成名古屋大学第13代総長の時のスローガン「名古屋大学からNagoya Universityへ」という方針を本校に組み入れた。濱口道成前名古屋大学総長の時に、名古屋大学が附属学校に課しているミッションの1つに「附属学校の国際化」がある。具体的には、「附属学校の充実」として①教育学部附属学校協議会によるマネジメントの強化②中高大連携による教育の充実③海外高校生受入体制の構築と整備である。これは名古屋大学のホームページで常に見ることができる(http://www.nagoya-u.ac.jp/2012website/about-nu/images/hamaguchi_plan/ver2013.pdf)。これを契機に、本校には海外から非常に多くの高校生や研究者が訪問することとなった。

以下は平成30年度2月現在での本校を訪問した海外からの長期短期留学生・研究者等の総数である。

	留学生	研究者
総数	269名	128名

留学生・研究者等の出身国：

フランス、ドイツ、サウジアラビア、モンゴル、台湾、香港、米国、中国、ブータン、イタリア、ベルギー、ドミニカ、チェコ、韓国、シンガポール、ブルガリア、イギリスなど

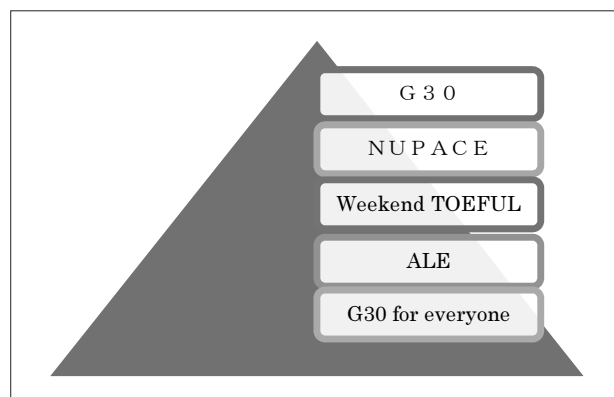
また、「名古屋大学からNagoya Universityへ」というスローガンをもとに、本校は国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究(H24～H26)に取り組み、中等教育でのIBDPの充実と大学への接続問題について研究と提言を「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究報告書」の中で行った。

名古屋大学第13代総長の平成27年度から松尾清一名古屋大学第14代総長へと引き継がれた。松尾清一総長は「名古屋大学松尾イニシアティブNU MIRAI 2020」を制定し、その中でも附属学校は大学のミッションに中に重

要項目の1つとして明記された。「国立大学の附属学校としての機能の点検と推進、大学の発展への活用」である。附属学校に課せられた取組は①高大の接続の推進、個別選抜方法への改革と取組②先進的な中等教育プログラムの推進、長短期の留学生受入れ数拡大による中等教育のグローバル化の推進である。

(2) 名古屋大学と一体化した英語によるコミュニケーション能力向上プログラム

本校SGHでは、ものごとの本質を地球規模で捉え、自分の力で探究し続ける勇気と判断力のある人間であり、本校はこれを魅力的なグローバル・リーダー像(本校では「自立した学習者」と呼ぶ)定義した。英語によるコミュニケーション能力を向上させることは、「自立した学習者」のにとって欠かすことのできない力である。そのために、本校では、次に示す5つのステージを名古屋大学と一体となって実践している。



《レベル1 G30 for everyone》

名古屋大学が実施しているEnglish and Japanese Training Programsである。「Studium Generale」というネーミングで春と秋の2回行われる。この中の「大学院講義の英語化に向けた英語力アップ講義-英語による模擬講義体験-」に現在、本校生徒が参加し、院生・学生・大学職員とともに異年齢集団の中で、英語力アップに努めている。

規定数以上の講義に参加することで修了証が名古屋大学から発行される。

《レベル2 ALE (Active Learning in English)》

名古屋大学留学生がリレー形式で講義を担当し、2時間連続の全10回シリーズで行われる。講義はすべて英語で行われ、ディスカッションやワークショップもすべて英語である。講義前には1時間チェックインとして、多くの名古屋大学留学生と一緒に、「英語の頭」を作る。講義後は、フォローアップとして、講義の復習を、TAと一緒にやる。TAは講義中も教室で生徒の手助けをする。

《レベル3 Weekend TOEFL》

留学を希望している大学生を対象に行っているTOEFL講座である。この講座は週末に行われ、本校生徒も大学生に交じり受講している。この講座に参加するためには、レベルチェック（スピーキング）を受ける必要があり、附属校生については、本レベルチェックの結果の上位2名までが受講することができる。

《レベル4 NUPACE (Nagoya University Program for Academic Exchange)》

名古屋大学は、学内で学ぶ短期留学生のために、各研究科、研究所、センター単位で、英語による授業群を開設している。これらの中から、高校生に適し、かつ受講が認められるものを選択し、高校生が受講できるようにしている。

《レベル5 G30》

名古屋大学には、G30による学部プログラム（自動車工学、生物系、科学系、物理系、国際社会科学、アジアの中の日本文化）と大学院プログラム（博士前期：自動車プログラム、土木系、物理数理系、化学系、生物系、経済ビジネス国際、比較言語文化、アジアの中の日本文化。博士後期：物理数理系、化学系、生物系、医学系、土木系）が存在し、すべて英語で授業が行われている。またこれには、一般教育科目arts & scienceと日本人学生が英語で受講できる科目も開設されている。これらの内、高校生の受講に適し、かつ受講が認められるものを選択し、高校生に受講させている。言うまでもなく、これらの講義レベルは非常に高いため、すべての高校生が参加する訳ではない。名古屋大学国際プログラムへ参加できる生徒は、英語運用能力だけでなく、コミュニケーション能力や英語で思考することができる生徒に限られている。しかしながら毎年数名の高校生が大学生に交じりこれらの講義を受講している。

(3) レベル1 G30 for everyone

上記5つのステージのうちで、本校生徒が数多く受講しているものがG30 for everyoneである。この講義は、

附属高校生を始め、名古屋大学学生、名古屋大学教職員が参加することができる。内容は、大学で行われている英語の講義がどのようなものであるかを、様々な分野において、大学教員（ネイティブ、非ネイティブ、日本人）が分かりやすく英語で講義するものである。扱われるトピックは、心理学系、コンピュータ系、社会科学系、理数系と多岐にわたる。全14回行われるが、7回以上参加した場合は修了証書が参加者に発行される。講義時間は2時間である。講義自体は、講座によって教員が変わるアラカルト方式のものである。名古屋大学構内で行われるため、キャンパス内にある本校生徒は、通常授業や部活動が終わった後で参加することができる。年2回、春と秋に開催される。2016年度、Spring G30 for everyoneに本校生徒は27名が参加、Fall G30 for everyoneには84名の高校生が参加した。SpringとFallの両方に参加する生徒もいる。

(生徒のG30 for everyoneに参加した理由)

- ・先輩に勧められたことと、楽しそうに思えたから
- ・英語に接してみたかったことと、自分がどれだけ英語を聞き取ることができるかをためしなかったから。
- ・普段経験できないことだし、生の英語を聴きたかったから
- ・講義内容に興味があったから
- ・リスニング力を鍛えることができると思ったから

(参加した生徒の感想)

- ・普段の授業とは全然雰囲気異なっていて興味深かったです。
- ・他に参加していた名古屋大学の留学生たちが、みんな英語でコミュニケーションしていたので、自分も英語力をつけて海外の方とお話したいと思いました。
- ・興味深いテーマばかりでとても楽しかった。わからない単語がたくさん出てきたがその時に辞書を調べた。
- ・いろいろな国の人と一緒に授業を受けることができとても楽しかった。
- ・英語が聞き取れないこともあったが、パワーポイントやジェスチャーなどでわかることもあった。いろいろなテーマの講義が聞けてよかった。
- ・難しくわからない講座もあったけど、自分がこれまで勉強してきたことでわかる内容もあって楽しかった。(文責 三小田博昭)